

「10種のポジションがあるトリニータ」

2019年7月19日(土) J1リーグ第19節 観衆12384名

大分トリニータ VS 北海道コンサドーレ札幌 19:00 KO 天候 大雨



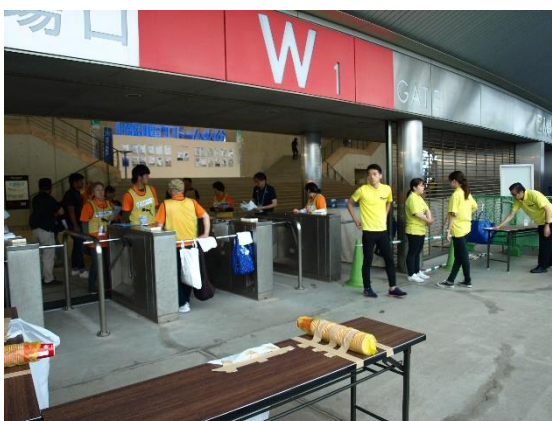
↑九州第5の都市 大分の街並み



↑昭和電工ドーム大分



↑選手入場時の人工芝設置 写真①



↑改札口のようなゲート



↑ピッチサイドシートのアテンド

※黄色いビブスがボランティアの方たちです



↑休憩時はモニターで試合観戦

1、「5年ぶりの大分」

大分を訪れたのは5年ぶり、J2時代の横浜FC戦以来でした。前回は大分トリニータボランティアの会・前会長が病魔と闘いながらも温かく迎えていただきましたが、前会長亡くなられた後も皆さんとの再会を兼ねての活動となりました。また前夜は今回の受け入れを担当していただいたYさん、現会長らが食事会を開いていただき、試合当日の午前中はあいにくの天候ではありましたが、湯布院観光、大分名物・だんご汁のランチまで一緒していただきました。

2、「10種類もあるポジション」

今年は全国的に梅雨の雨量が多く、ここ大分も梅雨の典型といった感じで、終日雨が降り時には大雨となっていました。KO4時間半前の14時30分、リーダーが集合し、クラブ社員の方から当日の試合運営の説明がありました。その後リーダーミーティングがあり、私の紹介とアウエイツアー（8月に広島と鳥栖の2回）、翌週のボランティア夏の宴の出欠確認、当日の欠席者の人員配置などが行われます。

ここで大分トリニータボランティアの会（以下大分V）活動内容（セクション）について紹介します。（HPおよび、皆さんからの聞き込みによる）

- ①本部…貴賓室のケータリングの補助も兼務
- ②誘導…入場ゲート内外でお客様の案内
- ③もぎり
- ④総合案内
- ⑤環境…スタジアム内の清掃、トイレ・関係者入口などに（自宅で育てた）花を飾る
- ⑥関係者受付
- ⑦プレス…メディア受付、他会場の試合速報を白板上に記入
- ⑧設営…チームベンチ、人工芝の設置
- ⑨サンプリング
- ⑩イベント…来場者アンケート、ピッチサイドシートでのアテンド

3、「南北ドームダービー」

当日は設営→誘導→イベントを順番に体験させていただきました。

まずは設営、こちらは他のセクションのボランティアに比べ活動開始時間が早く、倉庫からチームベンチ、20枚以上の人工芝を設置します。ほとんどがすでにリタイアをされている男性でしたが、皆さん慣れた手つきでムダなく作業をされていました。（写真①） つぎに

誘導へ 先行入場等が終わったあとのコーン撤去とアナウンスがメインですが、ここが唯一雨に濡れてしまう場所でした。他会場で活動された方は雨との闘いだったのではないのでしょうか？ 設営が大雨の中だったらと思うとぞっとしてしまいます。ちなみに当日はJ1の南北対決でもあり、ドームダービーでもありました。3連休の初日ということもあり、

600名もの札幌サポーターが大分まで来場されました。次にアンケート調査のヒアリングに同行です。こちらについては後ほど紹介します。休憩時には大分名物・とり天の弁当をいただきました。

KO30分前に「ピッチサイドシート」のお客様をクラブ社員の方とコンコースからピッチに誘導し、トイレ等案内、撮影NGなどの注視しながら、私たちが数メートル奥のベンチで待機しながら事実上観戦もでき、ハーフタイム終了と同時に交代し。控え室で休憩し試合終了直前に戻り、ピッチサイドシートの長椅子を倉庫に返却しイベントの活動は21時15分頃終了になりました。控室に戻ってくるセクションによっては終礼を行ない、リーダーの皆さんは日報を記入し、クラブに渡しているそうです。最も遅かったプレスの方は22時前に控室に戻りました。

4、「大所帯の活動人員とセクション制」

九州の中で最も収容人員が多いスタジアムがホームで、ボランティアの活動人員の多さもJリーグ屈指と言っても良いかと思います。大分Vは10種類ものセクションがあり、

1年目でも4回目からは自分の意思でセクションを選ぶことができるのが大きな特色です。1シーズンを通し、同じセクションを同じメンバーと活動し、リーダーはセクションの中で決めるというようになっています。セクションによって終了時間が異なるため、全体朝礼・終礼がない（できない）のも特筆すべき点かと思います。

そのためお互いの意思疎通が円滑に取りやすく、リーダーが細かい「指示」を出す必要がなく負担が減り、活動がスムーズに行なわれるというメリットがあります。またご年配の方にとっては心理的な負担も軽減されるのではないかと思います。

その反面、欠席者が多い場合のセクション異動者や新人の方への配慮、マンネリ化しないのだろうかと思いました。昨年サブ担当制を導入したり、花見（なんと103名が参加）、アウエイツアーなど行事も盛りだくさんであるようです。

現在のセクションとは別に「遊軍」を新たに設け、どんなセクションでも対応できるスーパーサブ専門の方がいればさらに大分Vがフレキシブルになるのではないかと感じました。

5、「渋滞に悩まされる昭和電工ドーム（以下ドーム）」

前日に現会長から「ドームは交通の便が悪く渋滞するだけでなく、駐車場から歩く距離が長い。大分の来場者がJ1J2の中で最も平均年齢が高く、高齢者はやがてマイカーで来場できなくなるようになる。高齢者が安心して観戦していただくためにはどうしたらよいか。そのためにアンケートを実施している」という話を伺いました。

大分市街からドームへ行くには途中から1本道の片側1車線の山道です。確かに客層を見ると学生層が少なく感じました。小学生も親子連れがほとんどです。電車社会の大都市部では見られない光景で、地域によって課題点は大きく異なるということを改めて感じさせられました。

ラグビーW杯開催中は大分市街に近い市営陸上競技場での2試合開催されます。その時に高齢者だけでなく、学生も対象にした「新規開拓」ドームへのアクセスの不便さを逆手に取り最寄りのJR駅から徒歩来場を勧め「ウォークラリーと健康増進」を呼びかけるのも手段のひとつとしてあるのではないかと思います。

6、「大分を愛する全てのスポンサーと共に」

大分トリニータはJ1からJ3まで経験している唯一のクラブです。そんな背景も影響しているのでしょうか「大分を愛する全てのスポンサーと共に」という段幕を見かけました。また当日は地元新聞社のサンクスマッチとなっていてKO前に「明日の新聞で勝利を伝える準備はできています」と挨拶されているのが印象的でした。

九州では「福岡一極化」が進んでいるように思われますが、サッカーに関してはFIFAワールドカップが大分で開催されたこともあり、大分トリニータが軸になっているように感じました。大分Vが九州のJクラブボランティアの先導役として盛り上げてくれたらいいなと思い、翌朝小雨の残る豊の国を跡にして熊本に向かいました。私も前会長の遺志を受け継いで行けるようにしたいと思います。大分Vの皆さんありがとうございました。またお会いしましょう。